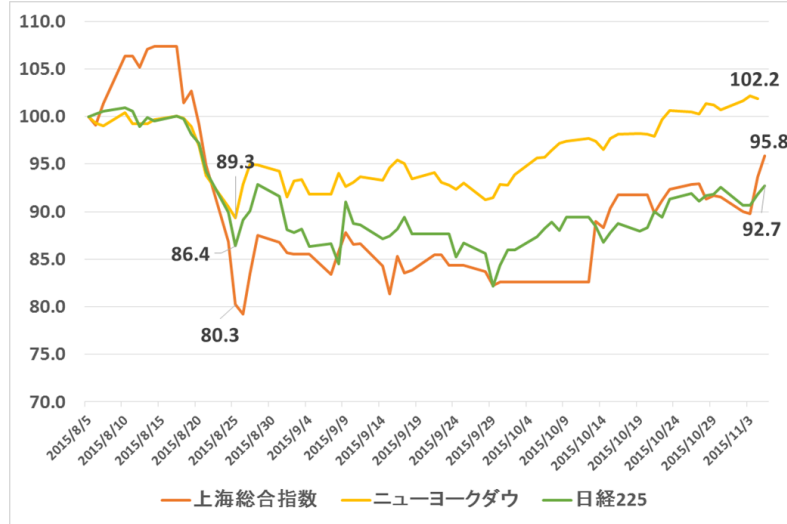


ATTENTION

8月、9月の荒れ相場を振り返る



このグラフをあらためて見てみると、なかなか興味深いものがあります。このグラフは8月、9月の荒れ相場を含む3ヶ月のグラフです。上海総合指数は8月ピークから8月25日まで実に25%下がっているのですが、投機的な市場の中国であれば、これは何の不思議もありません。6月半ばから7月初めにかけては、32%も下がっているのです。この中国の動きにつられ、日本も米国も急落し、8月24日にはニューヨーク・ダウが一時的に1000ドル安、日経平均は24日-895円、25日-733円とな暴落し、まさにパニック状態でした。さて、その後の動きを見てみましょう。ニューヨーク・ダウは11月初めには早くも8月初めの水準を超え、最高値をうかがうところまで来ています。今回の下げの本家本元中国、そしてやや鈍いですが日本も戻り歩調です。これをみると、新聞の一面見出しやテレビのトップニュースに釘付けになったり、下がったときに狼狽売りしたりしてしまうことの愚かさ、こういった荒れ相場はじたばたしないやり過ごすことの大切さ、そして大きく下がったときに唯一やるべきことは「買う」ということがよくわかります。

OPINION

企業アナリストの声が聞こえない

日本の株式市場は、2012年12月の安倍政権誕生以来堅調ですが、この数年来企業アナリストの存在感が薄くなっている印象を持ちます。ストラテジスト、エコノミストは新聞、テレビ等に登場し、幅を利かせていますが、企業アナリストは埋没してしまったかのようで、あまり声が聞こえてきません。市場の関心はどちらかというと米国金利情勢、日銀の緩和姿勢、中国経済の先行きなどマクロ環境に向かっていて、また運用手法もインデックス運用が幅を利かせるようになっていきました。以前は銀行、電機、自動車などの業種で著名な企業アナリストがいましたが、今は残念ながらあまり聞きません。出した業績予想やレポートに注目するような特色あるアナリストが、またアナリスト予想で株価が動くケースが少なくなっているような気がします。

そういった印象があること自体、大いに懸念されることです。どの担当アナリストも東芝の2000億円を超える利益水増しの不正会計を見抜けませんでした。会計士のみならず企業アナリストにもその責任の一端があるといえます。そこは、アナリストの質という面につながっていきます。またスチュワードシップ・コードに果たすアナリストの役割は重く、企業に対してその改善を働きかける立場にいます。企業アナリストが在籍する証券会社、生保や銀行系が多い運用会社に、企業に対する遠慮があるとしたら、これこそ株式市場の根幹に関わる問題です。もう一度企業アナリストの立ち位置という面で見直してみる必要があります。企業アナリストの質の向上は、株式市場発展の上で、大きなテーマです。

MARKET

	(10月末)	(9月末比)
日経平均	19083.10円	+1694.95円
NYダウ	17663.54ドル	+1378.84ドル
米ドル	120.65円	+0.71円

今月の言葉:

自己の利益に目を向けず、世界の利益に目を向ける。たとえ自分が成し遂げられなくても、成し遂げようとしたことは未来につながっていく。真に人類・社会に役立つことを成し遂げることを目的とすれば、充実した人生を歩める。

-ラッセル「幸福論」

あなたは未来が見えますか？—専門家よりよく見える方法がある

テットロックの著作「超予想：予想の芸術と科学」を、行動心理学でノーベル経済学賞を受賞したカーネマンは「この書はアマチュアが、真つ当なやり方でやれば、専門家よりずっとまじな予想ができることを示している。」と評しています。テットロックは、その予測する方法を“何を考えるか”より“どう考えるか”にあるとして、“仮説検証”によるマーケットや経済を予測する方法を、投資家に教えます。ここで、その中の5つの方法を紹介します。きっと専門家よりまじな予想ができるでしょう。

1. ベース・レートを設定する
 予想しようとするのが歴史的に起こる頻度やその程度を、同じような過去の出来事から選び出して、ベース・レートを設定する。予想しようとするのがこれまで唯一無二ということは稀で、よく検討すれば過去の同じような出来事をいくつか探し出すことができる。たとえば金利が1%上がると株はどう動くかと推察しようとするのではなく、過去の同じ程度の金利上昇の事例を抽出し、そのあとの株の値動きの平均値を算出し、それをベース・レートとする。
2. より明解にする
 ただ“新興国株は割安だと思う”ではなく、“今後12ヶ月で少なくとも25%上がる確率は80%”と予想する。新たな情報が入った時は、予想をそれに合わせて調整する。
3. 逆の展開を検討する
 逆の展開を想定して、今後12ヶ月で新興国株が25%下がるとしたら、どういう情報が必要となるかを考える。そしてそれを抽出して検討し、元の予想を修正する必要があるかをテストする。
4. 広く網を張る
 視点や立場、発信地などさまざまに大きく異なる情報や分析データを探し出す。その中で自論を強調する誘導的な表現、たとえば“さらに”、“あきらかに”とか“確かに”あるいは“不可能”というような表現は、その価値を割り引く。不確実性を認める“しかしながら”、“しかし”や“一方で”というような言葉は特に注意する。
5. すべてを測る
 自分の予想を裏付ける根拠を詳細に記録する。予想どおりとなった場合、ただ喜ぶだけでなく、取り上げた根拠によって正しかったのか、ただ幸運だったのか、よくその記録を検証する。予想と違った結果になった場合、それを他の間違ったときと比較して、そのパターンの修正の余地を探る。自分の予想のあらゆる側面を有意に検証しないと、予測精度を向上させることはできない。

より精度を高めて予想するためには、主観的要素を排除し、過去の事例を広く探索しその平均値をベースに予想し、その予想結果を検証していくということです。

SEMINAR

第52回『退職金や金融資産をしっかりと運用するためのセミナー』

—こうすればしっかりお金を増やすことができる—

年金支給開始の先送り、支給額の減額が現実になりつつあり、老後の生活環境はますます厳しさを増しています。一方で手数料収入を取り込もうとリスクの高い金融商品売り込む金融機関の営業活動はさらに激しくなっています。リスクの高い商品を勧められ、取り返しのつかない痛手を被ることも珍しくありません。自分年金を間違いなく作る必要性はますます高まっています。

- 国際分散投資のメリットと必要性
- 本当に正しい資産運用法の実践法
- お金に困らない老後の安心をいかに確保するか。
- よい金融商品はどのようなものか。
- 安心してお金の相談をできる場所はどこか。
- NISAの賢い活用法
- 相続税アップにどう対応すべきか。

30年以上の経験と資産運用で頂点のグローバル資格を持つ、金融機関から完全独立の資産運用アドバイザー尾藤 峰男が「セカンドライフを豊かに過ごすための資産運用法」をお話します！若い人も中高年の人もぜひお越しください！

日時 : 2015年11月29日(日)15:00~17:00

場所 : TKP東京駅丸の内会議室ミーティングルームC(日比谷帝劇ビル地下1階)

<http://tkpteigeki.net/access/index.shtml> (最寄り駅:有楽町・日比谷駅)

講師 : 尾藤 峰男 びとうファイナンシャルサービス代表取締役

参加費 : 1,000円(当日支払い)

申込み方法: メールまたは電話にて「11月29日セミナー参加希望」として、お名前とご連絡先をお知らせください。

E-メール: info@bfsc.jp Tel: 03-6721-8386

びとうファイナンシャルサービス 公式HP 毎週3分で、資産運用の成功へ導くメルマガ！

<http://www.bfsc.jp>

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

発行者: びとうファイナンシャルサービス株式会社

代表取締役 尾藤峰男

電話: 03-6721-8386

携帯: 070-5567-3311

FAX: 050-3156-1072

電子メール: info@bfsc.jp